

週日の説教

金 大烈 神父 2010年9月24日(金)

《私は神様から愛されている子》

今日は、ちょうどよいくらいの気温でしたね。司祭館を出ながら、このようなことを考えました。

暑い日には「今日は暑いから、ミサに与る信者が少ないのだろう」と思い、寒い日には「今日は寒いから、ミサに与る信者が少ないのだろう」と思います。雨が降れば「雨のためにミサに集まる人が少ないのだろう」と思い、天気が良ければ「こんなに天気が良い日は、みんなどこかに出かけてミサに与らないのだろう」と思います。これでは、どんな天候であっても、ミサに与る人は少ないことになってしまいます。ですから、“本当の信仰は環境とは関係なく、私たちの心の持ち方にかかっているのだろう”と思いました。

さあ、今日の第一朗読(コヘレト 3・1 11)で心に止まったのは、虚しい内容ばかりなのに、最後に「**神は、永遠を思う心を人に与えられる。**」という言葉があったことです。このような心が与えられたからこそ、私たちはいろいろな難しさがあっても、神様の約束を希望として受け入れて生きているのではないかと思ってみました。つまり、私たちはいつも永遠ということを考えているのです。それが救いの道に入るための一番基本的な門なのです。

さあ、今日の福音(ルカ 9・18 22)に入ります。昨日の福音(ルカ 9・7 9)は、洗礼者ヨハネを殺したヘロデが、イエス様の正体について、家来たちに聞く内容でしたね。「イエスとはどういう人物なのか。」と。すると家来たちは、いろいろ答えました。今日の福音は、その話題のイエス様自信が、同じ内容を自分の弟子たちに聞く話でした。そして答えは、昨日の福音とほとんど変わらないものでした。

今までこの箇所で説教する時、私はこのような話をしてきました。もし2000年前ではなくて今の時代にイエス様がここに立ち、私たち一人一人に向かって、「あなたは私のことを何者だと言うのか。」と聞かれたら、どのように答えますか。その答えを私たちはいつも準備してなくてははいけません。という話です。

しかし今日は、少し角度を変えて話したいと思います。もしイエス様がここに現れて、「私のことを何者だと言うのか。」と聞かれたら、答えるためにまず、この質問の中に隠れているもう一つの質問を考えなければなりません。それは、「あなたは、あなた自身を何者だと思っているのか。」という質問です。この質問が「私を何者だと言うのか。」という質問の影に隠れているのではないかと思います。もし、自分がどのような存在か分からなかったら、どんな相手が前に立ってもその人にふさわしい対応はできないでしょう。

さあ、私たちは何者でしょうか。「あなたは私のことを何者だと言うのか。」という質問を「あなたはあなた自身を何者だと思っているのか。」という質問に変えて考えてみましょう。私たちには、どのような答えが求められているのでしょうか。氏名を答えることもできます。「日本人です」と答えるこ

ともできるでしょう。いろいろな答えが出来ます。しかし、神様が本当に望んでいる答えは、おそらく「私は神様から愛されている子です。」という答えではないかと思います。もし私たちが、“本当に神様から愛されている”という強い意識を持つことができれば、「あなたは私のことを何者だと思うのか。」と問われた時に、ためらうことなく、すぐに答えられるのではないかと思います。「私を愛してくださいる神様です」と。

皆様、今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。そして私たち各自の心に刻みましょう。『私は神様から愛されている子』です。それを今日のミサを通してもう一回意識しましょう。

ありがとうございました。